

播州地帯に於ける大豆の害虫に就て

兵庫青年師範学校 教授 釜 江 正 己

序

滿洲大豆の輸入が途絶へたる今日唯一の植物性蛋白質の供給源を失い國民の栄養上には憂慮すべき事態に直面している。従つて内地に於て極度の栽培の方途を確立し、益々拡張増産の実をあげねばならぬ当然の機運にせまられている。然るに大豆を加害する害虫に於ては、極めて多く、收量の減少のみならず、栽培上極めて甚大なる障害をあたえている場合も少なくない。殊に莢を喰害する害虫に於ては特に甚だしく、本縣南部の一部地方に於ては殆んど收穫皆無の惨状を見る状況にして、早急に防除対策を樹立せねば、將來の大豆作の發展は、期待出來ぬと思ふ。防除対策確立の第一歩は害の基礎研究にあり、かゝる観点より筆者は昨年より播州地帯を主とした大豆害虫の分類と、被害状況調査に着手したのであるが、何等まとまつた成績をあげ得なかつた事は、誠に残念である。今後は縣下生物学界各位の絶大なる御協力を得て、充実に期し度く思う次第である。

次に不備不充分を知り乍ら昨年度調査の分を取纏め、極く簡単に説明を附し発表することとした。大方の御叱正御教示を乞う。

猶本調査実施に就ては農林省中國支場秋野技官より多大の御指導を賜つた事記して深甚の謝意を表する次第である。

◎大 豆 *Glycine Max* Merrill.

1) ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky.

6月～9月の頃出現最も普通に發生し葉を喰害する大豆の大害虫にして激甚を見ることあり一名ダイゾコザネの名あり、成虫は葉を喰害し幼虫はジムシと稱し地中に於て根を喰害す、翅鞘は青緑、栗、黒、藍、赤褐色等変種あり金屬光澤を帯ぶ。

2) マメコガネ *Popillia japonica* Newman.

盛夏の候發生成虫は葉、幼虫ジムシは幼根を喰す、前者は体長は稍々小翅鞘の大部分は黄褐色を呈し尾板節に三個の斑紋状白色毛塊を有す、年一回又は三年に一回の發生である。

3) ヒノサグラコガネ *Anomala geniculata* Motschulsky.

櫻の葉を多く喰害する大豆は比較的少ない様である。

4) スヂコガネ *Anomala testaceipes* Motschulsky.

翅鞘上に判然たる四縦隆線を有する。

被害は割合に少なし。

- 5) フタスビヒメハムシ *Monobpta nigrobilineata* Motschulsky.
 体長3mm内外淡黄褐色翅鞘上左右に三條の黒線あり、春出現大豆の稚苗に群集し子葉及若葉を喰す、成育期間中常に見られるが後期には害少なし。幼虫は根瘤を食すと言はれる。
- 6) ヒメキバネサルハムシ *Pagria signata* Motschulsky.
 被害少ない模様。
- 7) ウリハムシモドキ *Luperodes praeustus discrepans* Baly.
 一見ウリバへに類似、雄は雌より小、翅鞘暗褐色乃至黄褐色時に黒褐色あり、雌にては腹部翅鞘外に伸ぶ、年一回越年状態不明、生育初期成虫幼虫共葉花を喰害の模様。
- 8) マメハンメ *Epicauta gorhami* Marseul.
 通風甚しき場処に時々発見せらる程度、被害も少なし。
- 9) オンプバツタ *Atractomorpha bedeli* Bolivar.
 成育前期に於て葉を喰害。
- 10) ツユムシ *Phaneroptera nigroantennata* Brunner von Wattenwyl.
 被害極少なると成虫葉を喰す。
- 11) コホロギ類 (*Gryllus*)
 エンマコホロギ *Gryllus mitratus* Burmeister. を始め三、三種発芽当時の稚苗を妨ぐ、場処に依り案外被害大なり。
- 12) ケラ *Gryllotalpa africana* Palisot de Beauvois.
 前種同様の被害なるも乾燥地は少なし。
- 13) ホンヘリカメムシ *Riptortus clavatus* Thunberg.
 成虫幼虫共に若葉を喰害する多数発見せらる、早生種被害多い様である。
- 14) アラクサム *Nezara antennata* Scott.
 生育後期に多し。
- 15) 其他カメムシ類
- 16) 大豆アブラ *Aphis glycines* Matsumura.
 生長点附近に着生、葉裏に時々見られるも被害少ない様なり。
- 17) アザミウマの類 (*Thrips*)
 花器中に橙黄色の成虫を見る、乾燥極度の時発生多く落花を見ることあり。
- 18) モンキーク *Colias hyale poliographus* Motschulsky.
 幼虫は葉の表上にて喰害する。
- 19) ツバメシマミ *Everes argiades* Pallas.
 被害輕微。
- 20) ウコンノメイガ *Sylepta ruralis* Scopoli.

一般は葉捲虫と呼ばれ盛夏の候幼虫が若葉を捲き喰害する、18 mm内外全体淡緑色の幼虫なり。

21) シロイチモジマダライガ *Efiella zinckenella* Treitschke.

本虫は莢を喰害する大害虫にして、本縣にもこれに依り相当の被害を蒙つて居る。開花期間中殆んど飛翔し幼莢上に産卵し、幼虫が莢内に喰入する、年四回の發生の様にして発蛾期は次の如し。

(農林省農試報告)

- 一化期 5月中～下旬
- 二化期 7月中旬……………夏大豆若莢喰害
- 三化期 8月中旬……………夏大豆老熟莢喰害
- 四化期 9月中旬……………秋大豆の莢

従つて夏大豆に於ては三化三化の被害を受け全滅することもある、秋大豆にても1割内外の喰害豆を見る。

22) ハムグリバへの類

盛夏の候輪状の食跡を見る。

23) タネバへの類

発芽当時の子葉幼芽を喰害し發育を妨ぐ。

24) ダイバクキタマバへ *Asphondylia* ap.

分類学上の地位未だ確定していないが、本虫も莢を喰害する大害虫にして本縣にても之の被害に依り相当の減少を見ている。

成虫は蚊に類似し体長2～3 mm内外で開花より順次幼莢上に産卵加害する。

25) マメザウ *Callosobruchus chinensis* l.

一名アブキノウムシと称され、小豆の害虫なるも大豆(貯藏中)を喰害することあり。

26) 他に喰害していると思はれるもの。

- a アブキノサヤムシ *Thiodia azukivola* Mats.
- b ヨトウガ *Barathra brassicaeh.*
- c ダイバクキタマバへ(仮称)

以上

北村博士御指導ノチギク研究会

京大教授理学博士北村四郎先生を招き来る11月6日午後1時半から兵庫高校(旧神戸二中)に於て菊に関する講演会、7日は山陽電車、大塩駅9時半、合で野外指導が行れますから、会員諸賢の御参加を希望致します。会費10円会員外倍額学生5円。 本 部